

Monthly
Company
Magazine

ONDO

月刊 おんど

January
No.580 2026 1月

uchiya・サ・モス社 株式会社
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-1 76-1

TEL : 048-955-4181

FAX : 048-956-1310

E-mail : info@uchiya.co.jp

謹 賀 新 年

令和8年 元旦

社長 清水 澄人

新年、明けましておめでとうと御座います。旧年中はウチヤ社に取っては大変に厳しい年でありますましたが、新年に当たり、昨年来行なって来た構造改革推進の成果を遺憾無く發揮する、良い年になると確信いたしております。

さて、今年は丙午（ひのえうま）、馬は、農耕や運搬などだけでなく、武士の戦においても人々の生活で大きな役割を果たしていたことから、健康や豊作を象徴するとされている動物です。情熱を持ってかなえたい夢を追いかけ、挑戦するために行動する時期として捉えられている年です。60年に一度の丙午の年です。丙午は縁起が悪いと言われていますが、実際には迷信によるものが強いとされています。



さて、ウチヤ社ですが円安は中長期的に継続するものと考えられ、輸出型企業としての強みを活かす営業戦略を強化することが重要と考えますが、この海外戦略は下記の様なファクターが存在し難解です。政治的や経済的な問題を考慮した上で、医療機器、航空宇宙、AI関連機器（ハードウェア部門）、DX関連事業、半導体製造装置業界、軍需産業、等々への市場開拓と新製品投入を行い、ハードルの高い受注増強を進めることになります。

① トランプ大統領の製造業を米国内へ回帰させることを目的として進められている相互関税政策は、海外ビジネスを曇りガラスの様に前途を見難くしています。ヘアケアのビジネスでは最大の市場である米国を強化する必要があるのですが、政治不安は常に付き纏います。アメリカファーストを公言するトランプ大統領の政策は、MAGA(Make America Great Again)主義を徹底させ、ディープステート「政府や国家の公式な構造の裏側で、影響力を行使し、政策決定に関与するとされる非公式な組織やネットワークのことを指す」とされています。このディープステートを解体し、権力をアメリカ国民に取り戻すと繰り返し主張、そのために連邦省庁や政府機関を徹底的に見直し、腐敗した関係者を全員解雇することや、ディープステートのスパイ活動、検閲、権力の乱用に関するすべての文書の機密指定を解除し、公開することなどが進められています。

関税がかかる場合の負担イメージ



関税がもたらす影響

メリット

- 国産品よりも輸入品の価格が高くなり、国内の産業を保護できる
- 国の税収が増える
- 不当廉売や不公正な取引などをする国に対抗できる

デメリット

- 輸入する原材料などの価格も上がり、消費者や企業の負担が増える
- 長期的な国際的競争力が低下する恐れ
- 自由貿易体制が崩れてしまう懸念

② 中国のEV自動車は大赤字で世界的にも売れ行き不振、既に400社あったEVメーカーは40社に激減しBYDは倒産の危機に直面しています。自動車産業でのEV自動車のビジネス展開は停滞が続くことは間違ひありません。欧州車のEV化大きく失速、この関連ビジネスは世界規模で要注意となっています。

1 中国 EV大量放置 2 問題発生 どこまで許容? 3 日本はどう勝負

中国・浙江省
8月20日投稿
中国のSNSから



③ 日本国政府が主導する洋上の風力発電事業から、三菱商事の中西社長が経済産業省を訪問し、秋田県と千葉県で進めていた洋上風力発電の計画について、コストが膨らみ利益を確保できないため事業から撤退すると発表しました。今後、洋上風力発電は衰退するでしょう。



④ 再生可能エネルギーで水素をつくるオーストラリア最大の「グリーン水素」プロジェクトが頓挫。生産コストが高く、2024年に現地の州議会選挙で誕生した保守系の州政府が追加出資を取りやめたことが決定打となり、日本企業も参画していたが、関西電力や岩谷産業に続き丸紅も撤退。再エネ大国への転換を掲げる豪州でも計画が暗礁に乗り上げたことは、世界の脱炭素へのさらなる逆風、川崎重工業はレゾナック・ホールディングス（HD）との水素発電事業の協業を中止すると発表。再エネ電力から水素を作る「グリーン水素」には、本質的な欠陥があり、元々二次エネルギーである電力を使って水素を製造することそれ自体だ。再エネで作った電力を、そのまま使うのが最も効率的、水素はそのままで使えず、燃やして熱にするか、燃料電池で発電して電力にしないと使えない。電力と違って水素は、その変換過程でエネルギーは目減りし、その分コストは高くなる。英石油大手BPは、西オーストラリア州ピルバラで進めていた世界最大級のグリーン水素ハブ「アジアン・リニューアブル・エナジー・ハブ（A R E H）」から撤退する。



水素エネルギー デメリット



コストが高い
世間の認知度が低い
爆発するリスク

以上

照明コストの改善とLED化推進

令和7年8月4日

社長 清水 澄人

蛍光灯は広く使用されていますが、その電力消費量は決して小さくはなく、特に大規模なオフィスや工場では、照明にかかるコストが大きな負担となっています。適切な対策を講じることで大幅な省エネとコスト削減を図れます。

ウチヤ社では、昼休みには一斉に工場及びオフィスの蛍光灯を消すこと、稼働時間中でも人のいない自動機械・装置の天井照明の消灯、作業場でも窓からの太陽光が十分にあり作業場で求められる照度以上に明るい場所の照度調整や照明灯の間引使用、不必要的過剰照明は吊り下げスイッチを使ってこまめに消す、等々

の省エネ対策を行い経費削減の全社的(通達、ポスター等々で要請)活動を行なっていることは承知のことと思います。

三郷本社工場(北倉庫含む)全体

時間照明電力量	:	18,567Kwh
年間総照明電力量	:	36,270Kwh
年間照明電力使用率	:	6.6% (36,720Kwh ÷ 557,992Kwh 年間総電力使用料)
年間照明電力費用	:	¥1,100,842
月間照明電力費用	:	¥91,736



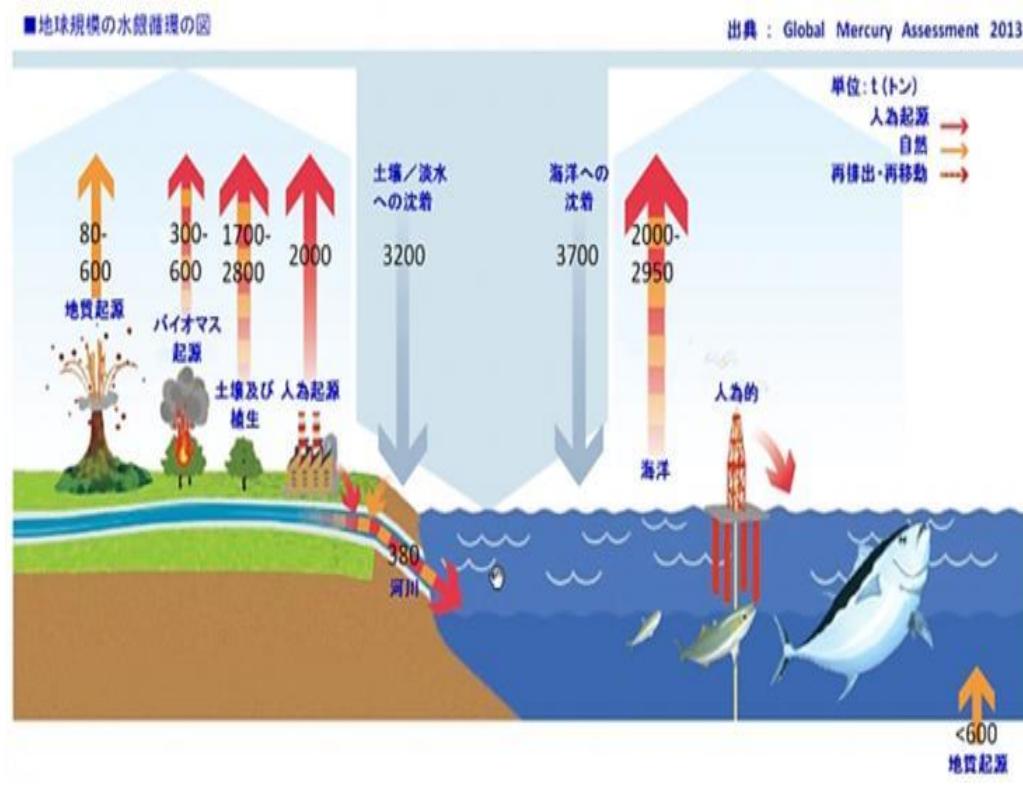
蛍光灯の2027年問題と言うのをご存知でしょうか！

「蛍光灯の2027年問題」とは、「水銀に関する水俣条約 第5回締約国会議」に基づき、蛍光灯の製造および輸出入が規制されることによって生じるさまざまな課題の総称です。この条約の第5回締約国会議において、直管蛍光灯の製造と輸出入を2027年末までに禁止することが合意されました。これに加えて、電球形およびコンパクト形蛍光灯については、既に2026年末での製造・輸出入禁止が決定しており、全ての一般照明用蛍光灯の製造が終了することになります。

蛍光灯は、ガラス管内の水銀蒸気が電流によって紫外線を発生させ、その紫外線が蛍光物質に当たることで可視光線を放つ仕組みです。

問題はこれらに使われている水銀が廃棄される過程で漏れた場合、河川や海洋に流出した水銀は、魚介類に取り込まれ、それを摂取する人間の健康にも間接的に影響を与えることが懸念

されています。「水銀に関する水俣条約」は、水銀のライフサイクル全体にわたる管理を強化し、水銀が環境に与える負荷を最小限に抑えることを目指しています。



蛍光灯の生産終了は、水銀を含む製品の流通量を減らすことでの水銀による環境汚染を抑制し、地球全体の環境保護に貢献するための重要なステップです。これらの健康被害のリスクと環境保護の観点から、国際的に水銀使用

製品の段階的な廃止が進められており、蛍光灯もその対象となっています。企業としても、これらの背景を理解し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとして、環境負荷の低い照明への切り替えを検討することが求められています。

直管蛍光ランプと環形蛍光ランプには一般タイプの「ハロリン酸塩系」蛍光ランプとプレミアムタイプの「三波長系」蛍光ランプとの二種類があり、互換性があります。後者の方が高効率でより明るい仕様です。「ハロリン酸塩系」が2026年末、「三波長系」が2027年末に、製造・輸出入が廃止されます。（出典：経済産業省）

蛍光灯が製造終了することによって、以下のような問題を引き起こす可能性があります。
交換用蛍光灯が入手困難に！ 製造が終了すれば、市場に出回る蛍光灯の数は減少します。在庫が枯渇すれば、必要な時に交換用の蛍光灯が手に入らなくなる可能性があります。価格の高騰すでに蛍光灯は値上げが進んでいますが、製造終了が近づくにつれて、品薄感からさらに価格が高騰することが予想されます。照明設備全体の維持管理コスト増加、部分的な交換ができなくなる。

その為、照明器具そのものをLED対応のものに交換する必要が生じます。これには、計画的な設備投資が必要です。勿論、LED化による電気代削減効果が大きく、LED照明に切り替えることで、電気代を大幅に削減することが可能です。LEDの消費電力は蛍光灯よりも大幅に低いため、長期的な経済効果も期待できます。たとえば、100本の照明を1日16時間点灯させた場合、年間の電気代は蛍光灯が約240万円なのに対し、LEDは約90万円と大きな差が生まれます。又、環境保護の観点からも望ましい導入となります。

（中小企業経営強化税制／経済産業省 参照）

更に、長寿命による交換回数の減少 LED 照明は蛍光灯に比べてはるかに長寿命です。一般的に、蛍光灯の寿命が数千時間から 1 万数千時間程度であるのに対し、LED 照明は 4 万時間から 6 万時間以上と、数倍の寿命を持ちます。このため、照明灯の交換頻度を大幅に減らすことができます。つまり、交換作業にかかる手間やコスト(人件費、高所作業費など)を削減できるほか、交換作業による業務の中止を減らすことにもつながります。

LEDのメリットとデメリット



照明費用は大幅に改善するのですが、照明器具を全て LED 専用の装置に交換する必要があり、一時的に大きな設備投資費用が発生します。無論、照明費用の低減で償却しては行けるのですが、出費を極力低減させる目的として、現行の蛍光灯器具に取り付けられる特殊な LED 照明が日本のメーカーにあり、既存の蛍光灯器具の寿命を見ながら、この LED 照明を取り付け、段階的に LED 専用器具への切替を 3 年位かけて実施する計画を進めています。最初に特殊 LED 照明を使った照明費用の節約をしながら、段階的に専用器具への切替を進めて投資負担を軽減させてています。このことに、ご案内の照明運用(節約 OFF 運動)の費用削減策を同時にを行うことで、最初から費用対効果が大きく得られることになります。



現在、ウチヤ本社工場には 562 台の照明器具があり、工場の耐震補強改修時に LED 専用器具に切り替えを終わっているものが 297 台、残りが依然として蛍光管型器具が 265 台在ります。LED 照明化率 52.8%で消費電力削減率は約 3.6%程度となっています。残り 265 台に対して、上述の特殊 LED を蛍光灯の寿命に合わせて切り替え、その後 3 年程度で LED 専用器具への完全交換を完了させる予定です。

尚、金町営業本部(渋澤ビル)は既にテナント契約を締結した時点で、LED 照明化(専用器具)が 100% 実施済み。又、西北倉庫(事務所及び倉庫)も完全な LED 照明化がなされています。

以上

連絡通達書 連絡項目 照明の消灯について	発行部署 資料総務部	承認 社長 758.04 清水	検討 会員 最終 回覧	作成 武田常務 山崎監査役
連絡事項				↑

現在、エネルギー価格や物価の高騰により、電気料金が値上がりしています。工場内で特に窓際などの明るい場所は、自動的に蛍光灯を付けたまゝにせず、作業場所の照度基準を考慮の上、こまめに照明を消し、節電を行うようにしてください。

※機械装置の稼働場所、目視検査など品質に関わる場所や、暗いと危険な場所は必要に応じて照明を使用してください。

労働安全衛生法の照度基準	<ul style="list-style-type: none"> 精密作業: 30ルクス以上 普通の作業: 15ルクス以上 粗い作業: 7ルクス以上 <p>事務所における照度基準 一般的な事務作業: 30ルクス以上 付随的な事務作業: 15ルクス以上</p>
--------------	--



昼休みは 以外も必要無い 照明は OFF!!

- 窓際は必要性を考えて照明使用（考え無しで点灯はNG）
- 照明が無くても照度基準を満たす所は進んで OFF!!
- 目視検査を行つてない場所など OFF!!



事務所も人のいない場所は照明
OFF!!



人がいない場所は照明
OFF!!



ヒモ S/W でこまめに **OFF!!**



人の居ない窓側は **OFF!!** 必要性のある場合のみ点灯。※残業、季節などによつて異なる



ヒモ S/W でこまめに **OFF!!**

UIL(ウチヤ・アイルランド社)スタッフ7年ぶりの来日

2025年11月19日

営業部課長 打矢 文彦

ウチヤ・サーモスタッフ株式会社(UTC)の子会社であり、欧州の営業・生産拠点である Uchiya Ireland Ltd. (UIL)から取締役兼ゼネラルマネージャー Mr. Seamus Seymour 及び技術者 Mr. Garry Murray が10月15日に来日されました、翌日の16日から22日までUTCで開催されましたUILの取締役会や研究開発会議に出席、各部署との打合せ、また協力会社である第一工業、渡辺製作所を訪問し、工程の確認や質疑応答を行いました。滞在中に焼肉レストランにて二回夕食会を行い、プライベートな話も交えながら交友を深め、楽しい時間を過ごすことができました。また、二人は、滞在中の週末に、浅草、秋葉原、上野、スカイツリー、渋谷、新宿等様々な観光地を訪れ、日本を満喫できたと仰っていました(ただ、初来日のMr. Garry は生魚等日本食全般が苦手な為、日本食を食べる機会が少なかったようで、日本食が大好きなMr. Seamus にとっては少し気の毒でした)。

Mr. Seamus から「Greeting from UIL」と題した寄稿文が届きましたので、ご紹介させて頂きます。



GREETINGS FROM UIL

For those who do not know me, or might not remember who I am, my name is Seamus Seymour, Director & General Manager of Uchiya Ireland Ltd. (UIL), the European outpost. UIL is located in Dublin, Ireland and looks after of the European Market. At UIL, we manufacture UP/OP Series and UI2 Series for Europe and provide many other Uchiya Thermostat products to European customers.

It has been a number of years since I was last at UTC, back in 2018 before the COVID pandemic. It seems strange to me that over 5 years have passed since the COVID lockdown, much has changed since that challenging time. Even after the severe lockdown restrictions were eased in Europe, the impact of the COVID movement restrictions was a shock that many people have still have not recovered from fully.

Our visit to UTC in October has been a valuable experience for Mr. Garry Murray and me. In particular, I was incredibly happy to meet old and new colleagues at UTC. Much has changed since I was last in Misato, and my overall impression is that Uchiya Thermostat is once again becoming a young, dynamic company. There are many challenges ahead of course, be it economic or technological, yet the future for the Uchiya Thermostat company is positive.

ウチヤ・アイルランドからの挨拶

私のことをご存知ない方、あるいはひょっとしたら思い出せない方のためにご説明しますと、私はシェーマス・シーモアです。ヨーロッパ前哨部隊であるウチヤ・アイルランド社(UIL)の取締役兼ゼネラルマネージャーを務めています。UILはアイルランドのダブリンにあり、ヨーロッパ市場を担当しています。UILでは、ヨーロッパの顧客向けにUP/OPシリーズとUI2シリーズを製造しておりますが、その他にも多くのウチヤ製品をヨーロッパのお客様に供給しております。

私が最後にUTCを訪れたのはコロナパンデミック以前の2018年ですので、随分久しぶりの訪問となります。COVIDによるロックダウンから5年以上が経過したとは信じがたいほどで、あの困難な時期から多くことが変わりました。欧州で厳しいロックダウン規制が緩和された後も、COVIDによる移動制限の影響は衝撃的なものであった為、多くの人々はまだ完全に回復できていない状況です。

今回のUTC訪問は、ギャリー・マレー氏と共にとても貴重な経験となりました。特に、UTCで新旧の同僚の方々にお会いできたことを大変嬉しく思っております。前回三郷を訪問した時から多くの変化がありました、全体的な印象としては、ウチヤサーモスタッフは再び若々しく、活力のある企業へと成長しつつあるということです。もちろん、経済的にも技術的にも多くの課題はありますが、ウチヤサーモスタッフの将来は明るいと確信しています。

I was particularly saddened by the news that Mr. Haruo Tanaka has passed away recently – he was a great supporter of UIL from the start of our company, serving as the first Managing Director of UIL before returning to UTC. We have many good memories of Mr. Tanaka in UIL, and on behalf of UIL and his friends in Europe, I would like to extend our sympathies to Mr. Tanaka's family and colleagues in UTC at this sad loss.

Since the last time that I visited Japan, the world has changed in many different ways. I'm sure if you listen to the media, it might seem that that Europe is on fire with war in Ukraine, high cost of living / housing crisis, extreme heat with forest fires in summer and the borders being flooded with migrants coming from all over the world. All this together with a recession deeply hurting European economic powerhouses like Germany does not give European people a positive feeling, but life goes on.

Like Japan with the USA tariff situation, Europe is at a crossroads regarding its future direction – do we cling to the past hoping everything will correct itself or do we move forward in a different direction. Many world leaders are now determined to tear up the rules governing international relations and business ethics, sometimes not to the benefit of their own people.

The short-term thinking of the political class and the stock markets has created a world with the underlying philosophy as stated in the 1987 film "Wall Street" where the character played by Michael Douglas says that "greed, for lack of a better word, is good". Today for many people in positions of power and influence, their philosophy has become – "greed is essential!"

田中春夫さんが先日逝去されたという知らせを伺い、非常に深い悲しみを感じております。田中さんはUIL 創業当初からのUIL の偉大なサポーターであり、初代マネージングディレクターを務めた後、UTC に復帰されました。UIL には田中さんとの思い出が数多く残っております。UIL とヨーロッパの友人を代表し、ご遺族の皆様、そしてUTC の同僚の皆様に謹んでお悔やみ申し上げます。

前回日本を訪れて以来、世界は様々な形で変化しました。メディアの報道を聞いていると、ウクライナ戦争、高騰する生活費・住宅危機、夏の猛暑と森林火災、世界中から押し寄せる移民による国境の混乱で、ヨーロッパが炎上しているように見えるかもしれない。これらに加え、ドイツのような欧州経済の要を深く傷つける景気後退が重なった為、欧州の人々は明るい積極的な気持ちを持てずにいます。そのような状況下でも、生活をして行かないならない。

米国の関税問題を抱える日本と同様に、ヨーロッパは自らの将来の方向性について岐路に立っている状況と言えます。過去にしがみつき、全てが自然に解決することを期待していくのか、それとも別の方向へ進むのか？多くの世界の指導者たちは今、国際関係やビジネス倫理を左右するルールを破壊することに躍起になっており、それは時に自国民の利益にならないこともあります。政治家や株式市場の短期的な思考のせいで、1987 年の映画「ウォール街」でマイケル・ダグラス演じる登場人物が「欲は、適切な言葉が見つからないが、良いことだ」と語ったような哲学を持つ世界が作り出されました。今日、権力と影響力を持つ多くの人々の哲学は「欲は不可欠だ！」となってしまっております。

In Ireland, while the overall economic growth continues to exceed expectations, there are many problems like energy costs still rising, labour costs still rising, inflation still rising, rental costs still rising, taxation burden still rising, cost of doing business still rising – you may notice a trend! None of these issues prevent UIL's customers from continually asking for price reductions and discounts!

When we look at the future, we see many changes from the world that we have known for all our lives. Old alliances are breaking down, and instability is becoming more normalised. “AI” is changing how many of us now see the world evolving for the future. We must continue to move forward and face this new world with confidence and determination that Uchiya Thermostat will be a continuing part of this future.

I would like to thank all at UTC for their continuing support to UIL, and I hope to see you all again in the near future.

Slán agus beannacht dé leath

Seamus Seymour, Director & General Manager, Uchiya Ireland Ltd.

アイルランドでは、経済全体の成長は予想を上回り続けていますが、エネルギーコスト、人件費、インフレ、賃貸料、税負担、事業コストなど、多くの問題を抱えています。皆さんもこうした傾向には気付きかもしれません。しかし、UILのお客様は、これらの問題があるにもかかわらず、値下げや割引を絶えず求めてきます。

未来を見据えると、私たちがこれまで経験して来た世界から大きく変わっていることに気が付きます。古い同盟関係は崩壊し、不安定さがより常態化しています。AIの登場により、私たちの多くが未来に向けた世界の進化の捉え方を変えつつあります。私たちは、ウチヤ・サーモスタットが未来の一部であり続けるという確信と決意を持って、この新しい世界に立ち向かい、前進し続けなければなりません。

UILに対し継続的なサポートを頂いていることに関しまして、UTCの皆様に感謝申し上げたいと思います。近い将来、また皆様にお会いできることを願っております。

Slán agus beannacht dé leath

ゲール語(アイルランドの公用語の一つ。アイルランドの公用語は英語とゲール語)

”goodbye and blessings be with you“(さようなら、ご加護がありますように)の意

シェーマス シーモア、取締役兼セネラルマネージャー、
ウチヤ アイルランド リミテッド